



今、できることをできる限り

校長 玉置 恭美

今年も、校庭の梅の花が満開になりました。朝、メジロのつがいが出てきて、花をついばむ様子が見られます。日本海側に大雪を降らせ、観測記録を変えるような寒さが来ても、換気のために窓を開けねばならず、授業中も寒い思いをしていましたが、暦とともに、着実に春は近づいてきていました。

今年も、感染症拡大防止のため、多くの学校行事が変更となったり、例年お世話になっているボランティアさんとの交流がなかったりと、変更や制限が多い年でした。そんな中でも、多くの方々が学校を支えてくださいました。図書館ボランティアさんが絵本の読み聞かせを録画してくださったものを、金曜日の朝に、全校でテレビ視聴することができました。ボランティアの皆さんが、季節にあったお話、子どもたちの関心を引く本を選んで三密を避けて工夫して録画してくださったものでした。役割に分かれて、いろいろな人の声が聞こえてきて、とても楽しく聞かせていただきました。



花ボランティアさんは、花壇の水やりや、新しいお花の植え付け、また、5年生と共に、卒業式用のプランターの作成などをしてくださいました。5年生たちは、このように土を作り、花を育ててくれていることに気づき、ボランティアさんの指示でてきぱきと動きました。

コロナ禍の中でしたが、児童みんなに、「自分ができるところをできる限りやろう」という思いが感じられる一年でした。1年生は幼稚園、保育園の子ども

たちに小学校の生活を伝えるため、お手紙やビデオ作成に取り組んでいます。総合的な学習の時間で、3～5年生が新たなご縁で地域の方々となつながら、「まちのために自分ができるところ」を見つけたり、思いを繋げ、SDGsでの課題解決の方法を考えたりすることができました。

地域の方々にお礼の気持ちを伝える感謝の会も今年も実施することができません。でも、可能な形で地域と繋がり、様々な機会での新たな取組ができた令和2年度、子どもたちは多くのことを学ばせていただきました。卒業まで、あとわずか。6年生は小学校6年間の感謝の気持ちを伝えたい人に、ぜひ伝えてほしいと思います。

保護者、地域の皆様のご協力に、心より感謝いたします。もうすぐ卒業、進級を迎える子どもたちを、どうぞ見守っていただきますよう、お願いいたします。

